第16回「いつもありがとう」作文コンクール

言葉ではいえない家族への感謝の気持ちを作文に書いてみよう

■募集テーマ／いつもお世話になっている家族に対し、普段言葉ではなかなかいえない感謝の気持ちを作文に書いて応募してください。
例)「お母さんありがとう」「大好きなお父さんへ」「私のお兄ちゃん」…など

■応募方法／400字詰め原稿用紙1～3枚まで。作品の裏に応募者の郵便番号・住所・氏名・電話番号・学校名(所在地・電話番号)・学年・年齢・当コンクールを知ったきっかけを明記してください。
◎応募作品は返却しません。◎ひとり何点応募しても結構です。◎作品は必ず自分で書いたもので、未発表のものに限ります。◎海外からも受け付けます。

■応募資格／全国の小学生

■応募締切／2022年9月9日(金)必着

■応募宛先／〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-10-4 寿ビルディング2F
「いつもありがとう」作文コンクール事務局

■お問い合わせ／電話03-3545-5226　受付時間10時～18時(土・日・祝日を除く)

■審査員(敬称略)

作家 あさの あつこ

気象予報士 森田 正光

フリーアナウンサー 小島 奈津子

シナネンホールディングス株式会社 山崎 正毅

朝日小学生新聞 清田 哲

■入賞発表／2022年12月9日(金)朝日小学生新聞紙上・
「いつもありがとう」作文コンクール特設ウェブサイトで発表予定

■賞／
- 最優秀賞……1作品　賞状・副賞として図書カード5万円分
- シナネン賞……1作品　賞状・副賞として図書カード3万円分
- ミライフ賞……1作品　賞状・副賞として図書カード3万円分
- 朝日小学生新聞賞……1作品　賞状・副賞として図書カード3万円分
- 優秀賞……低学年の部 3作品／高学年の部 3作品　賞状・副賞として図書カード2万円分
- 入選……低学年の部　7作品／高学年の部　7作品　賞状・副賞として図書カード5千円分
- 団体賞……賞状・副賞として図書カード5万円分

「北海道・東北」「関東・甲信越」「中部・関西」「中国・四国」「九州・沖縄」の5ブロックから選出

【「いつもありがとう」作文コンクール 特設ウェブサイト】
https://sinanengroup.co.jp/sakubun/

主催：シナネンホールディングスグループ／朝日学生新聞社　後援：文部科学省／朝日新聞社

※ご応募に関する注意事項／コンクールの審査結果に関わらず、応募作品に関する所有権、著作権等の権利は、主催者側に帰属するものとし、それらを広告宣伝等の目的でシナネンホールディングスグループ及び朝日学生新聞社の広告や印刷物、ホームページ等に使わせていただく場合があります。※個人情報に関する注意事項／お客様からいただいた個人情報は、賞品等の発送、シナネンホールディングスグループ及び朝日学生新聞社の広告宣伝等のための広告や印刷物、ホームページ等への応募作品の掲載のためにのみ利用させていただきます。また、当該業務の委託に必要な範囲で委託先に提供する場合を除き、個人情報をお客様の承諾なく第三者に提供いたしません。

【シナネンホールディングスグループ】
シナネンホールディングス　ミライフ西日本　ミライフ　ミライフ東日本
日高都市ガス　シナネン　シナネンサイクル　シナネンモビリティPLUS
シナネンエコワーク　シナネンゼオミック　ミノス　タカラビルメン
インデス　シナネンファシリティーズ

人とエネルギー、住まいと暮らしのあいだに。SINANEN
https://sinanengroup.co.jp

最優秀賞

福岡県
明治学園小学校２年
能美（のうみ） にな

「一日お母さん」

わたしはお母さんと二人家ぞくだ。いつもお母さんが家のことをしてくれる。ある休みの日、わたしは「お母さん」のやくをかわってみることにした。「一日お母さん」だ。

けっ行の日をきめたら、まずはじゅんび。お母さんの行どうをじっくりかんさつする。ふむふむ、おふろは前の日のよるにあらうんだな。あらかじめコツを聞いておいたものもある。お母さんがかかさないのはトイレそうじだ。つわりがひどかった時トイレで長い長い時間をすごし、その後ぶじにわたしが生まれたので、おれいの気もちでそうじをしているらしい。そうじはたなの上から下へ。もちろんゆかやべんきのうらもわすれずに。りょうりは、おばあちゃんに教えてもらってけいかくをたてた。あとは、けっ行の日までお母さんのよこでいろいろと見学したり、道ぐのばしょをおぼえたりした。

さあ、いよいよ「一日お母さん」の日。ルールは二つ。りょうりする時はかならず声をかけること。一人で火をつかわないこと。

まずはねているお母さんをおこす。今日はわたしがお母さん。名前でよんであげるんだ。

「ななちゃんおきて、朝だよ」。

ぼんやりとおきてきたお母さんをせ中にかんじながら、わたしは朝ごはんに目玉やきをつくる。できあがったら、食べる前にせんたくきのスイッチを入れに行く。ごはんを二人で食べおわったら、ちょうどせんたくきからおわりの合図がきこえた。ベランダでしわをのばしながらきれいにほす。そうじきかけにトイレそうじ。うん、なかなか上手にうごけている。すこし時間があったので、パソコンでしごとをしているお母さんに「ななちゃん、ちょっと休けい、おちゃにしましょ」と声をかけ、こうちゃを入れた。

いよいよ本日のメイン、ばんごはん。メニューはかわらそば。お肉、それからうすやきたまご。さいごにつくったうすやきたまごはあつくてさわれず、さめるまでじっとまつというもったいない時間をすごしてしまった。そばをほぐす水をよういするのもわすれてしまい、水をとりに行っている間に、なんと、そばがこげてしまった。さいごのさいごにさんざんだ。そういえば、お母さんは先にたまごをつくって、さましている間にお肉をいためたりそばをほぐしたりしていたな。一つ一つはできていても、じゅんばんをまちがえると空き時間がふえたり、たりなかったりするんだな。おふろもちゃんと前の日のよるにあらっていたっけ。まるで時間のパズルだ。

「一日お母さん」はあっというまだった。じゅんびの時間のほうが長かった。「お母さん」は一日だけではできない。つながった毎日の時間をうまく組み合わせてなりたっている。

そう、お母さんは一日にしてならず。

お母さん、いつもありがとう。